

# 2024年3月期 決算短信補足資料

2024/5/14

株式会社ニッスイ



# 2024年3月期 決算概況

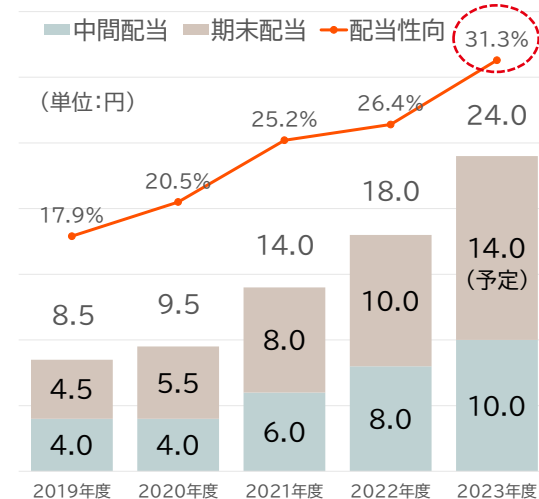


## 2024年3月期 サマリー

- ・売上高8%増収、営業利益21%増益でいずれも過去最高を更新。当期純利益も12%増益となり3期連続で最高益を更新。
- ・期末配当は14円で5期連続の増配、年間では24円(前期比6円増)。

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比 増減	増減率(%)
売上高	7,681 億円	8,313 億円	631 億円	8.2
営業利益	244 億円	296 億円	51 億円	21.1
経常利益	277 億円	319 億円	41 億円	15.1
当期 純利益	212 億円	238 億円	26 億円	12.3
ROIC	5.2 %	5.3 %	0.1 %	

2024年3月期 計画 (2月発表)	進捗率 (%)
8,250 億円	100.8
290 億円	102.3
310 億円	103.1
235 億円	101.5
5.1 %	



## 2024年3月期 セグメント別概況

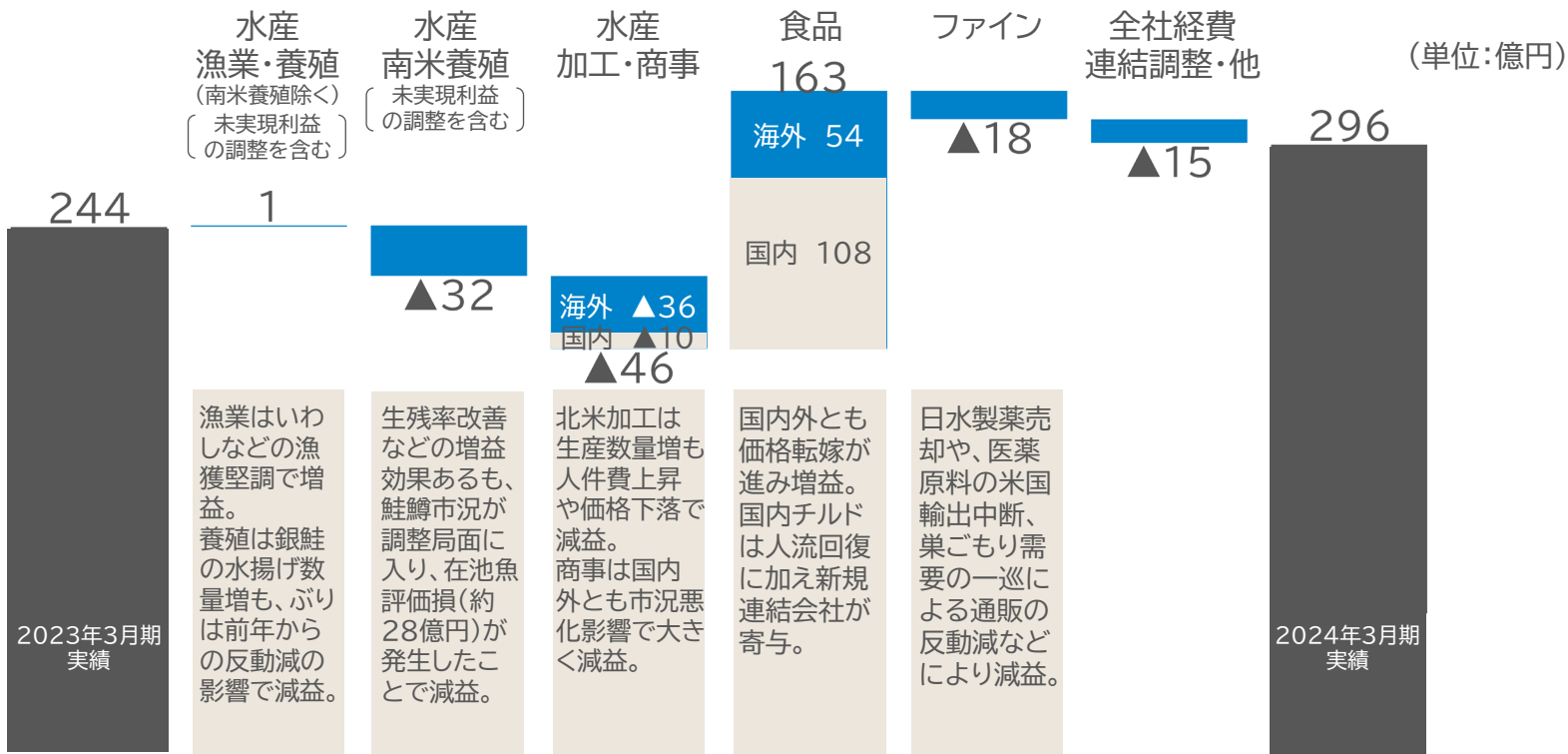
水産は市況下落あるも円安で増収。食品は国内外で業務用が回復したことに加え、円安や値上げ効果もあり大幅増収。ファインケミカルは日水製薬売却の影響により減収。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>7,681</b>	<b>8,313</b>	<b>631</b>	<b>8.2</b>
水産事業	3,283	3,368	85	2.6
食品事業	3,820	4,432	612	16.0
ファインケミカル事業	251	156	▲94	▲37.5
物流事業	154	152	▲2	▲1.8
その他	171	202	30	17.9
<b>営業利益</b>	<b>244</b>	<b>296</b>	<b>51</b>	<b>21.1</b>
水産事業	185	106	▲78	▲42.4
食品事業	114	272	158	138.8
ファインケミカル事業	17	▲1	▲18	—
物流事業	15	15	▲0	▲3.6
その他	7	7	▲0	3.0
全社経費	▲95	▲104	▲8	9.1
<b>経常利益</b>	<b>277</b>	<b>319</b>	<b>41</b>	<b>15.1</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>212</b>	<b>238</b>	<b>26</b>	<b>12.3</b>

<売上高為替影響額>  
+約300億円

## 2024年3月期 主な営業利益増減要因(前期比)

食品は国内外とも価格転嫁が実現し大幅な増益で他の事業をカバー。国内漁獲が堅調なうえ国内銀鮭養殖拡大が寄与するも、市況が調整局面に入ったことで国内外とも水産は減益。



## 2024年3月期 連結貸借対照表(前期末比)

■ 運転資本増加に加え、CVS向けベンダー会社の新規連結もあり総資産が増加。  
 自己資本比率は40%超え。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減		
<b>流動資産</b>	<b>3,251</b>	<b>(+208)</b>
現金及び預金	166	(+62)
受取手形及び売掛金	1,082	(+126)
棚卸資産(在庫)	1,840	(+81)
<b>固定資産</b>	<b>2,812</b>	<b>(+365)</b>
有形固定資産	1,663	(+172)
無形固定資産	173	(+32)
投資その他の資産	975	(+159)
<b>総資産</b>	<b>6,063</b>	<b>(+573)</b>
<b>流動負債</b>	<b>2,128</b>	<b>(+140)</b>
支払手形及び買掛金	566	(+64)
短期借入金	966	(▲39)
未払費用	336	(+77)
<b>固定負債</b>	<b>1,362</b>	<b>(+66)</b>
長期借入金	1,097	(+48)
<b>純資産</b>	<b>2,573</b>	<b>(+366)</b>
自己資本	2,491	(+323)
自己資本比率		
'23/3	39.5%	⇒ '24/3 41.1%

## 2024年3月期 連結キャッシュフロー(前期比)

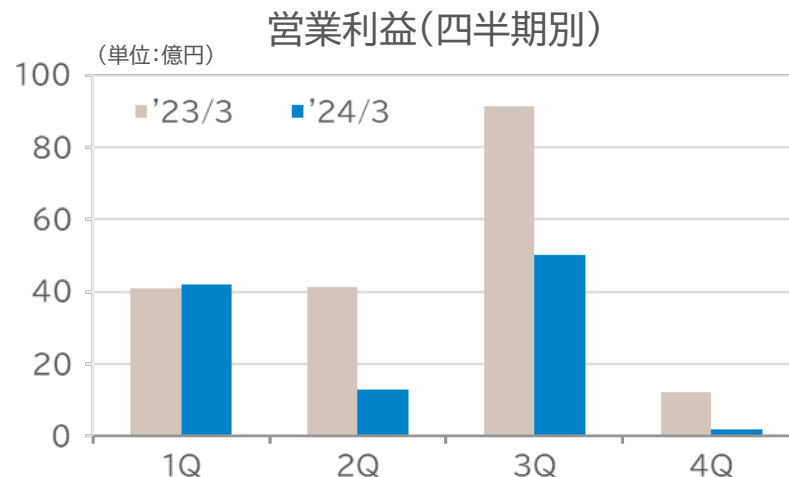
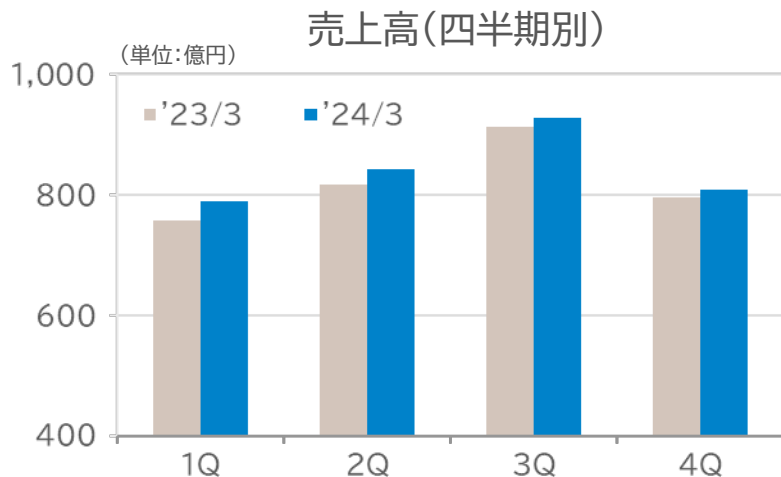
在庫コントロールにより営業キャッシュフローが大幅改善。

(単位: 億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	292	348	55
・減価償却費(のれん償却含む)	207	228	21
・運転資本	▲ 355	35	390
・法人税等の支払額	▲ 124	▲ 47	77
・その他	13	▲ 20	▲ 33
<b>営業活動によるCF</b>	<b>33</b>	<b>544</b>	<b>510</b>
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 227	▲ 262	▲ 34
・その他	2	▲ 115	▲ 117
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 225</b>	<b>▲ 377</b>	<b>▲ 151</b>
・短期借入金の増減額	163	▲ 84	▲ 248
・長期借入金の増減額	71	25	▲ 45
・その他	▲ 60	▲ 64	▲ 5
<b>財務活動によるCF</b>	<b>174</b>	<b>▲ 123</b>	<b>▲ 298</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>142</b>	<b>195</b>	

## 2024年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

市況が調整局面に入ったことから不採算在庫の早期処分等を進めた。一方、南米養殖と北米加工で市況下落の影響があるが円安で増収も大幅減益。

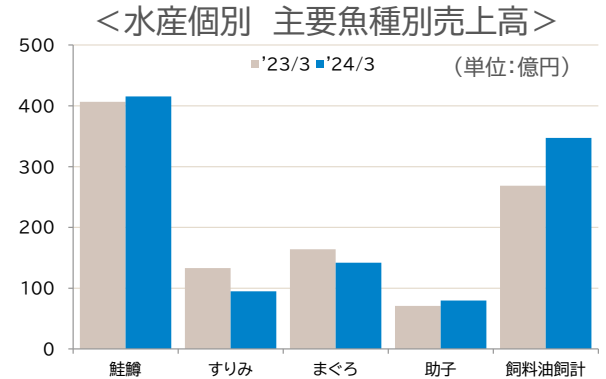
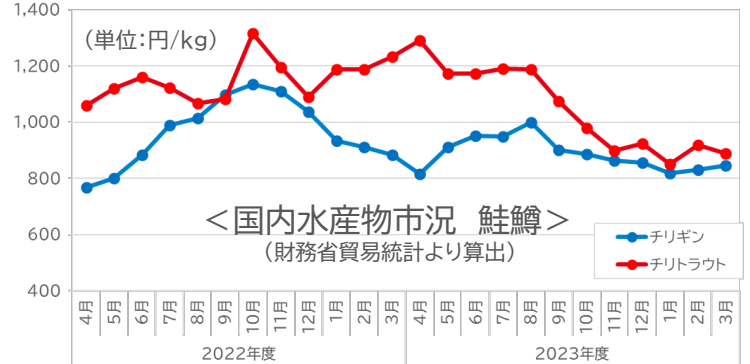
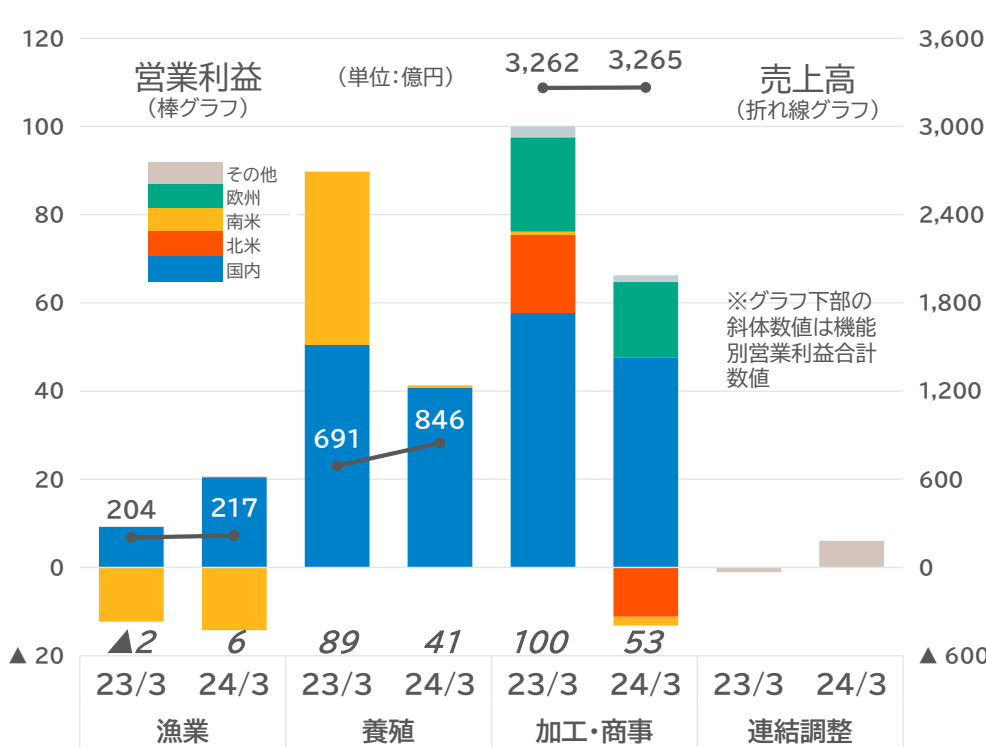
(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,283	3,368	85	2.6
営業利益	185	106	▲78	▲42.4





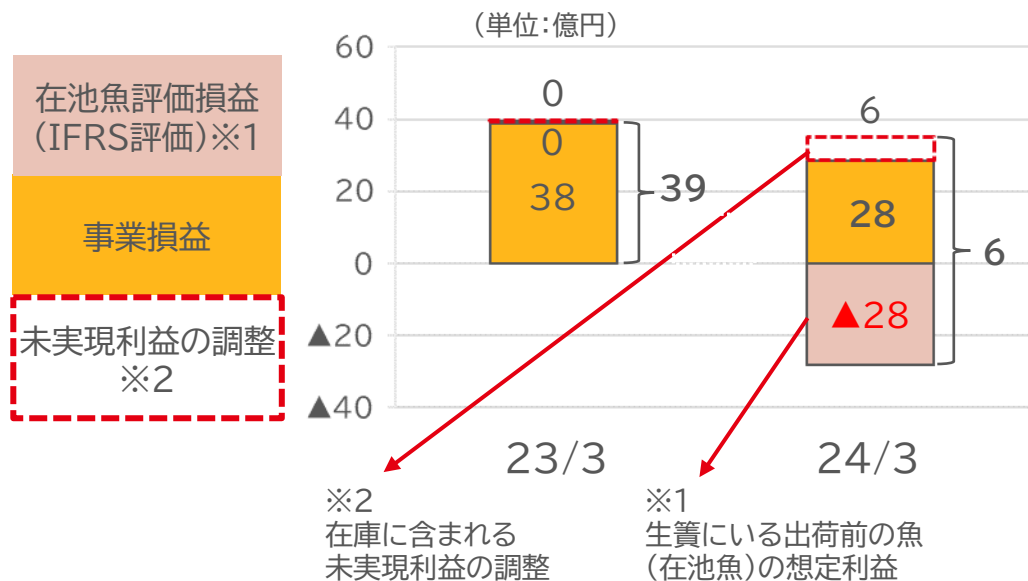
# 2024年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

- 国内養殖は養殖成績の改善が進むも、ぶりが前年の反動減の影響を受け減益。
- 南米養殖や北米加工、商事事業は市況下落の影響を大きく受け苦戦。

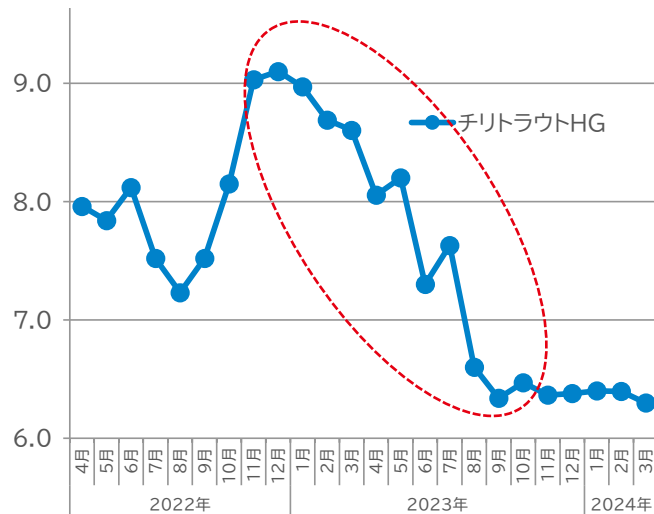


# 2024年3月期 南米鮭鱒養殖について

鮭鱒市況が調整局面に入ったことで在池魚評価損が膨らみ減益。



<チリ産トラウトHG相場推移>  
(単位: USD/kg)

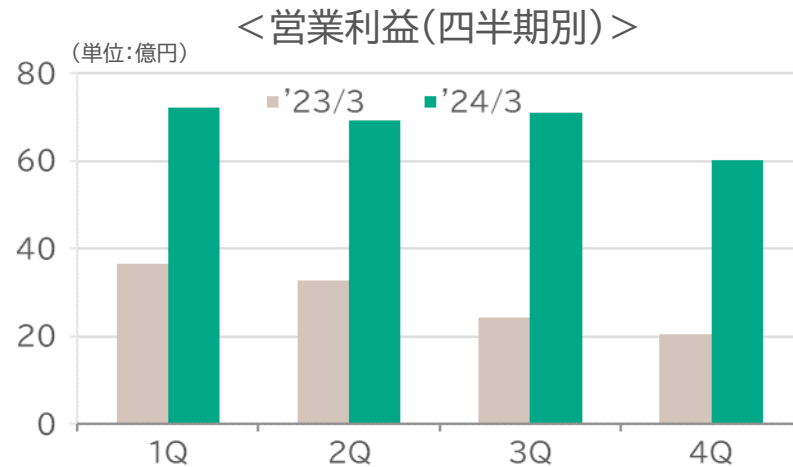
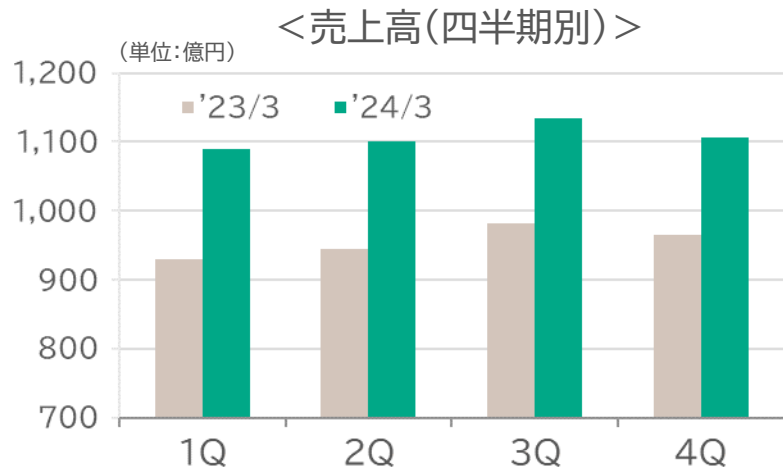


(出典: InfoTrade) (HG: 頭と内臓を除去した状態の魚)

## 2024年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

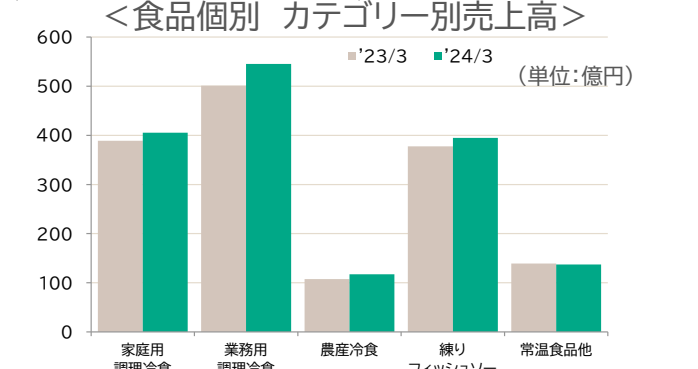
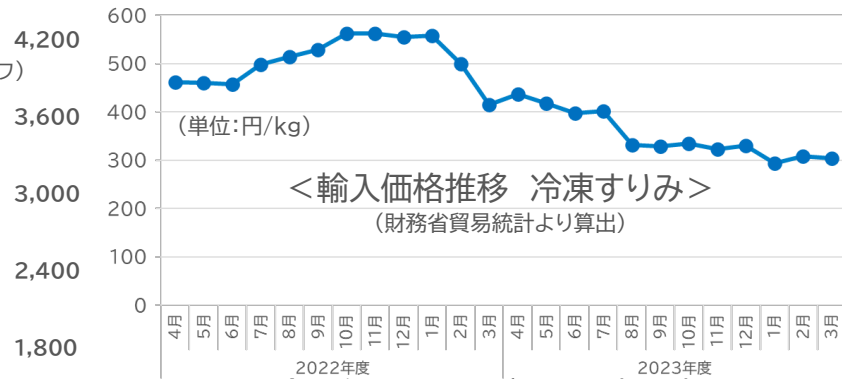
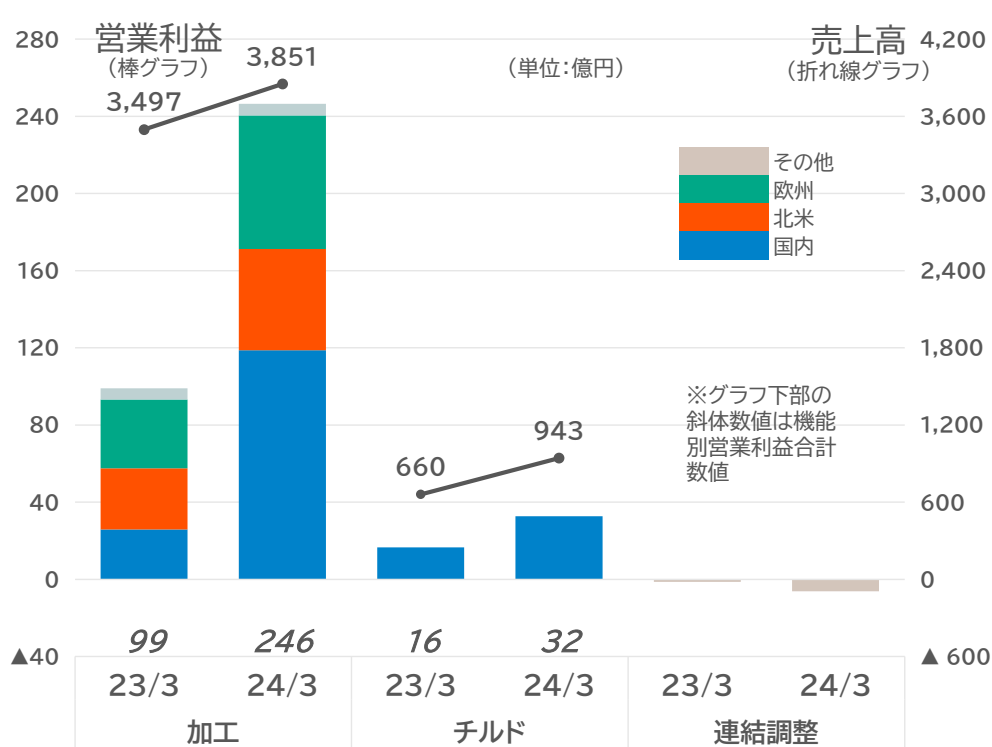
国内外とも販売数量の減少は見られるものの、大幅増収増益。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,820	4,432	612	16.0
営業利益	114	272	158	138.8



# 2024年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

国内外とも人流回復により外食など業務用が好調なうえ値上げ効果も継続、原料価格低下効果も出始め増益。チルドはCVS向けおにぎりなどが順調なうえ新会社の連結効果もあり増益。

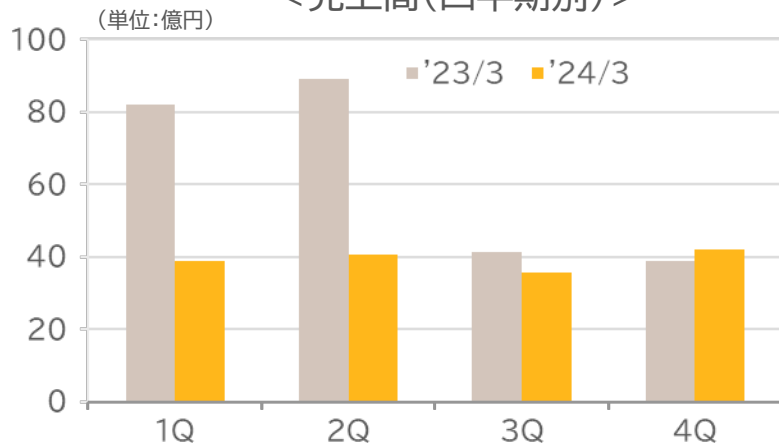


## 2024年3月期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前期比)

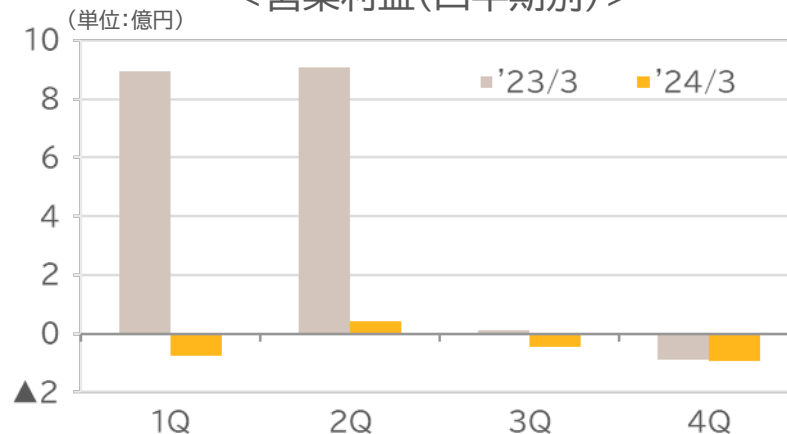
■ 日水製薬売却(2022年9月)による影響、医薬原料の米国向け輸出中断に加え、巣ごもり需要の一巡による通販の反動減などにより減収減益。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	251	156	▲94	▲37.5
営業利益	17	▲1	▲18	—

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

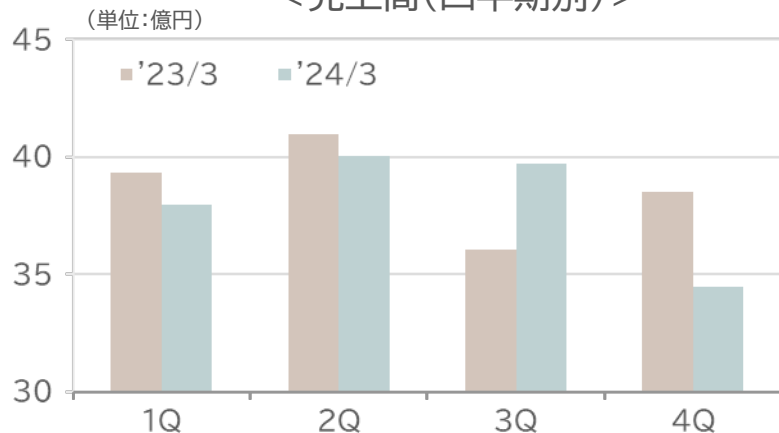


## 2024年3月期 物流事業 売上高・営業利益(前期比)

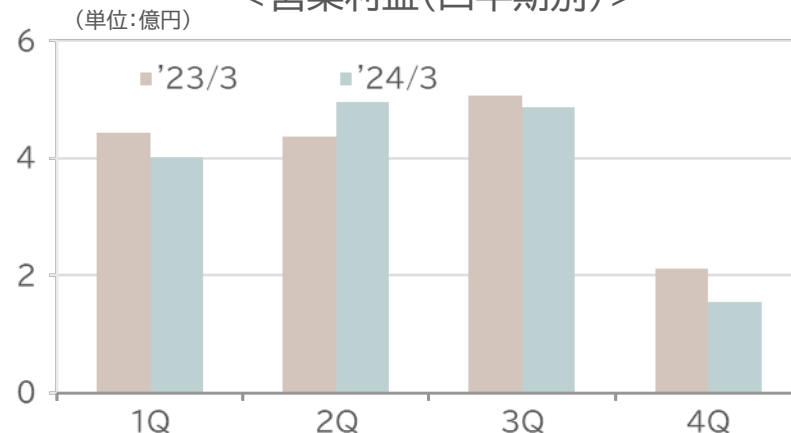
値上げにより収益性は改善したものの、新物流センター(日水物流株式会社南港物流センター)開業の費用が発生したこともあり利益は前年並み。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	154	152	▲2	▲1.8
営業利益	15	15	▲0	▲3.6

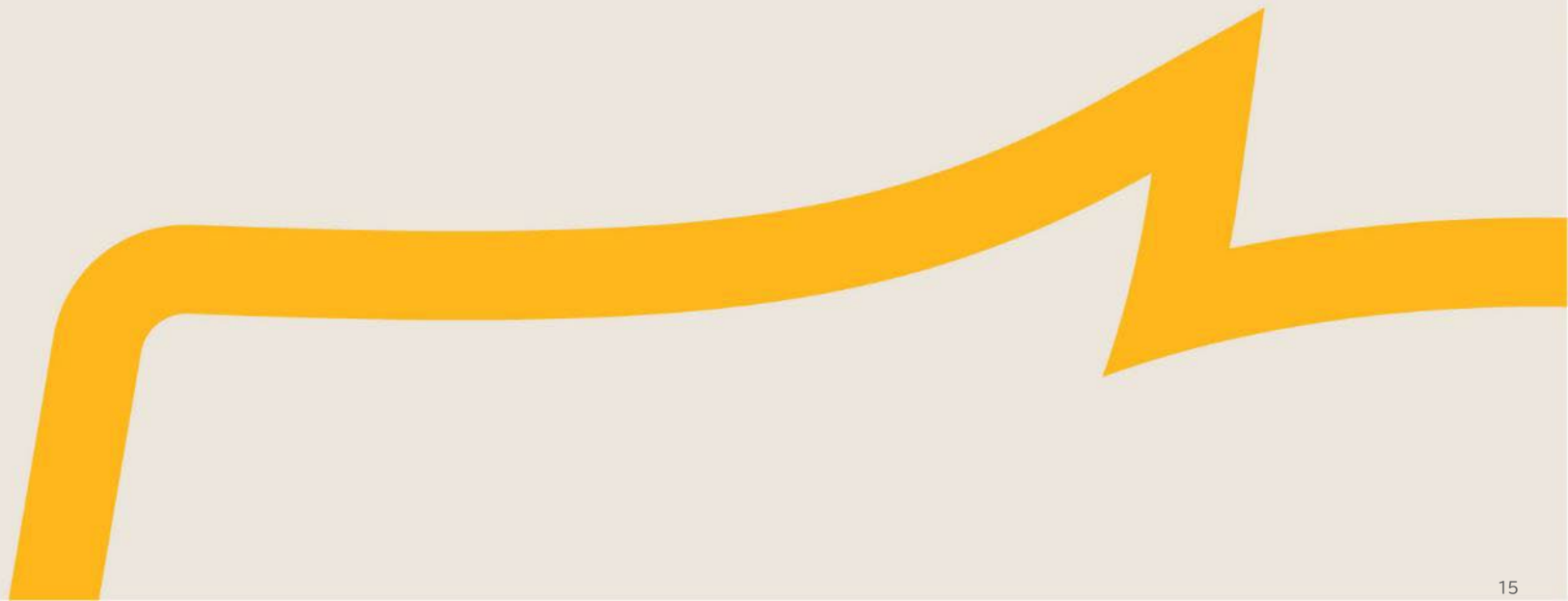
<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>



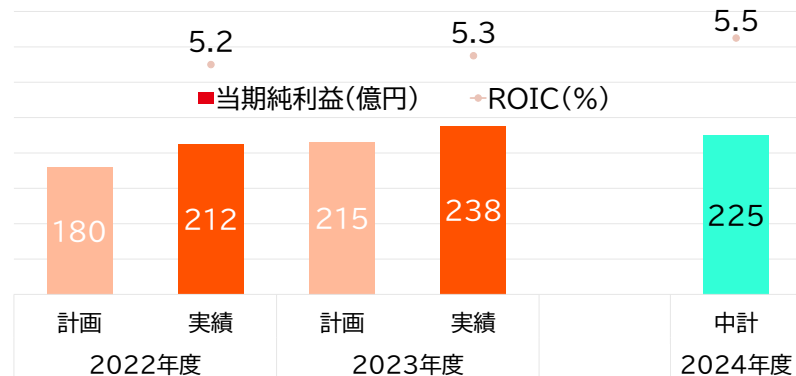
# 2025年3月期 計画



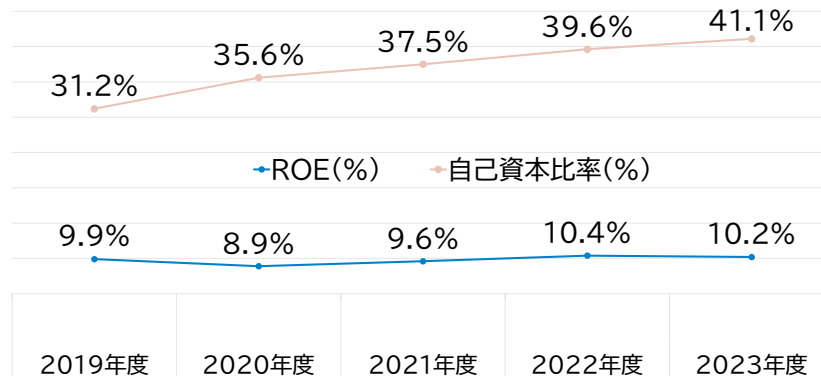
## 成長投資に加え政策保有株式売却など事業ポートフォリオ最適化を進め、2024年目標のROIC達成も視野に入れる

- ① シナジーが限定的だった日水製菓・ハウスイを売却
- ② 政策保有株式の売却
- ③ 欧米食品事業のマーケット拡大と収益性改善
- ④ ・国内食品事業の値上げや単品別収支管理による収益性改善  
・チルド事業(グルメデリカ)への投資と既存会社との統合効果
- ⑤ 国内養殖拡大と食材化推進に加え、欧州鮮魚ビジネスで収益力強化
- ⑥ 医薬原料の海外展開は当初計画から遅れ
- ⑦ 財務体質が改善する中で、ROEは10%をキープ

### ▶ 当期純利益・ROIC



### ▶ ROE・自己資本比率



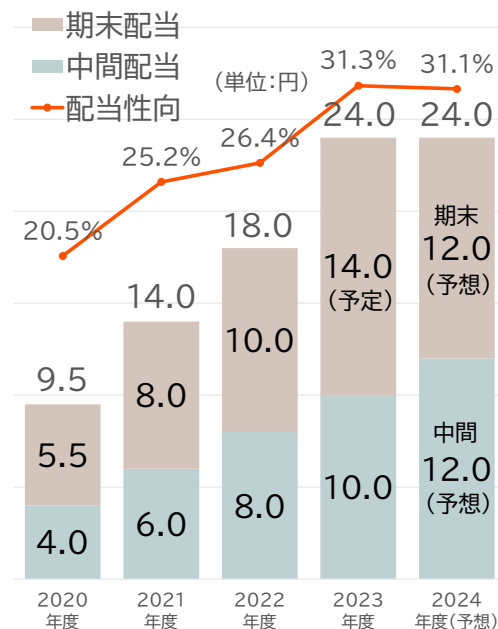


# 2025年3月期 計画 サマリー

売上高・各段階損益とも中期経営計画-Recipe1を達成し、過去最高を目指す計画。

	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比 増減	
			増減	増減率(%)
売上高	8,313 億円	8,750 億円	436 億円	5.2
営業利益	296 億円	325 億円	28 億円	9.6
経常利益	319 億円	350 億円	30 億円	9.5
当期 純利益	238 億円	240 億円	1 億円	0.6
ROIC	5.3 %	5.8 %	0.6 %	

中期経営計画 (2022年発表)	対中計比 増減
7,900 億円	850 億円
320 億円	5 億円
350 億円	0 億円
225 億円	15 億円
5.5 % 以上	



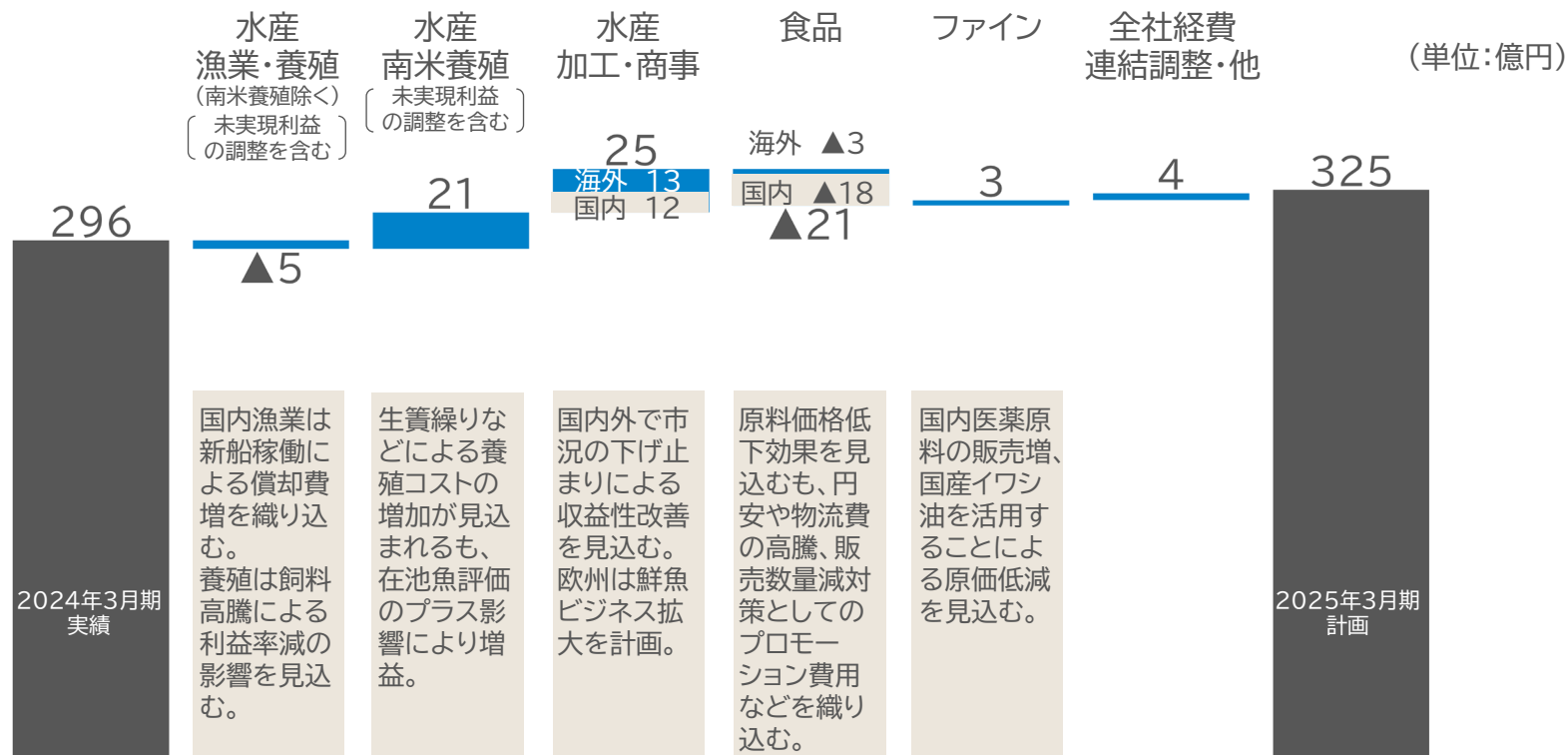
## 2025年3月期 計画 セグメント別概況

水産市況の下げ止まりが見えてきたうえ、南米養殖の在池魚評価のプラス影響で水産の利益が持ち直し、食品をカバー。ファインケミカルの海外展開は時期が見込み難く、計画に織り込まず。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比増減		中期経営計画 (2022年発表)	対中計比増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
売上高	<b>8,313</b>	<b>8,750</b>	<b>436</b>	<b>5.2</b>	<b>7,900</b>	<b>850</b>	<b>10.8</b>
水産事業	3,368	3,511	142	4.2	3,088	423	13.7
食品事業	4,432	4,705	272	6.1	3,991	714	17.9
ファインケミカル事業	156	165	8	5.1	394	▲229	▲58.1
物流事業	152	167	14	9.8	163	4	2.5
その他	202	202	▲0	▲0.4	264	▲62	▲23.5
営業利益	<b>296</b>	<b>325</b>	<b>28</b>	<b>9.6</b>	<b>320</b>	<b>5</b>	<b>1.6</b>
水産事業	106	144	37	35.1	157	▲12	▲8.0
食品事業	272	255	▲17	▲6.6	172	83	48.3
ファインケミカル事業	▲1	3	4	—	64	▲61	▲95.3
物流事業	15	20	4	30.2	21	▲1	▲4.8
その他	7	9	1	21.4	9	0	0.0
全社経費	▲104	▲107	▲2	2.2	▲103	▲3	3.4
経常利益	<b>319</b>	<b>350</b>	<b>30</b>	<b>9.5</b>	<b>350</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>238</b>	<b>240</b>	<b>1</b>	<b>0.6</b>	<b>225</b>	<b>15</b>	<b>6.7</b>

# 2025年3月期 計画 主な営業利益増減要因(前期比)

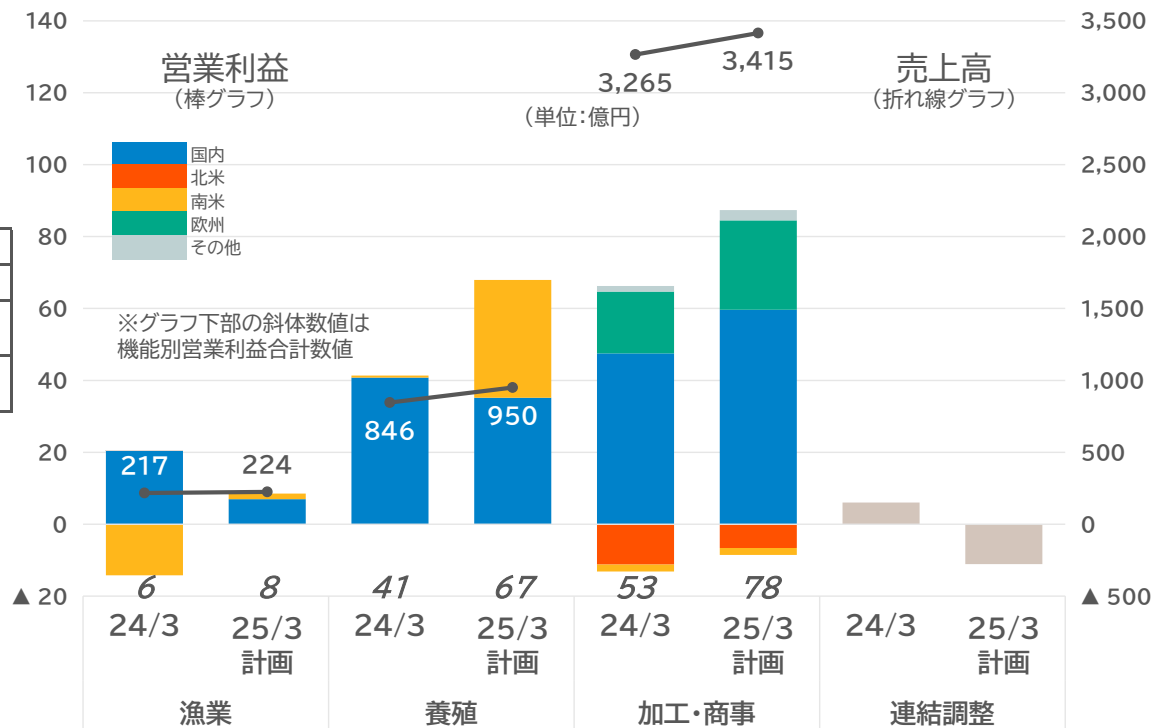
2024年度は水産が食品をカバーする年に。



## 2025年3月期の取組み：水産事業

市況の下げ止まりや不採算在庫の整理などによる加工商事の収益改善に加え、南米養殖の在池魚評価のプラス影響もあり、飼料高騰の影響が見込まれる国内養殖をカバー。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,368	3,511	142	4.2
営業利益	106	144	37	35.1



# 今後の取組み：水産事業(養殖)

## 養殖の高度化と拡大で水産事業の収益力を強化。

<ROIC向上の施策>



税引後 営業利益	効率化・ 最適化	(ぶり)大型生簀による数量増と作業集約で生産性改善
		(まぐろ)2つの養殖会社の協働深化による収益力強化
		魚粉比率低減や成長性向上を図るため、配合飼料の研究開発や飼料の空気圧送などの取組みを継続
	事業拡大	(銀鮭他)養殖拠点の拡大
投下資本	高付加価値	(南米)高付加価値品を北米を中心に販売拡大し、収益力を向上させる。
	養殖の 高度化	育種や仕組みの構築によって短期間で大きく育つ養殖の拡大 (完全養殖ぶり、短期畜養まぐろ)
		養殖適地に限りがある中、陸上養殖への展開を進める

(日本)銀鮭養殖の拠点拡大



広田湾(陸前高田市)で  
銀鮭養殖を展開



(南米)生産人員の最適化・再配置による高付加価値品の  
増産・拡販で市況に打たれ強い収益構造の構築



北米向け  
フィレ増産



日本向け生食  
(刺身)製品増産

## 今後の取組み： 水産事業(加工商事)

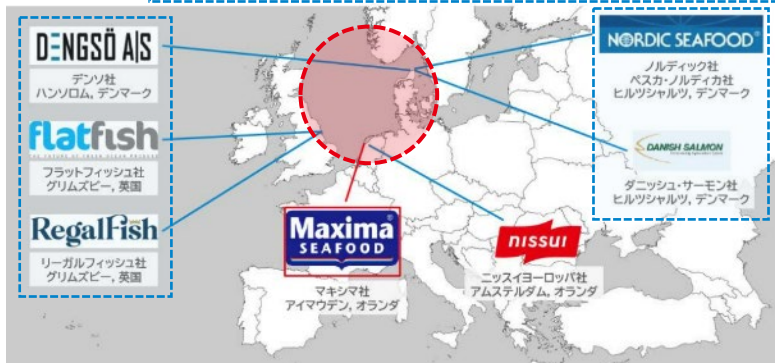
### 付加価値商品の拡大により収益力強化を図る。

#### <ROIC向上の施策>



税引後営業利益	欧州加工商事	調達・加工機能の強化を基に更なる顧客ニーズに対応し、販売拡大と収益力強化を図る
	北米加工	製品価格の低迷・労務コスト高止まりなどにより、引き続き苦戦が見込まれるが、更なる資源獲得努力とフィレ生産比率を高め収益確保を目指す
	国内加工商事	4月に取得した加工拠点(陸前高田市)をベースに加工度を高め食材化比率を向上させることに加え、集約型流通事業の取組みを進めていく
資投本下	在庫削減	国内外とも従来以上に仕入と在庫の管理を徹底する

(欧州)特に北海周辺の鮮魚ビジネスを強化し、水産事業の拡大と高収益化を図るとともに、ホタテ等の日本産水産物の輸出を拡大し、日欧双方のシナジーを最大化する

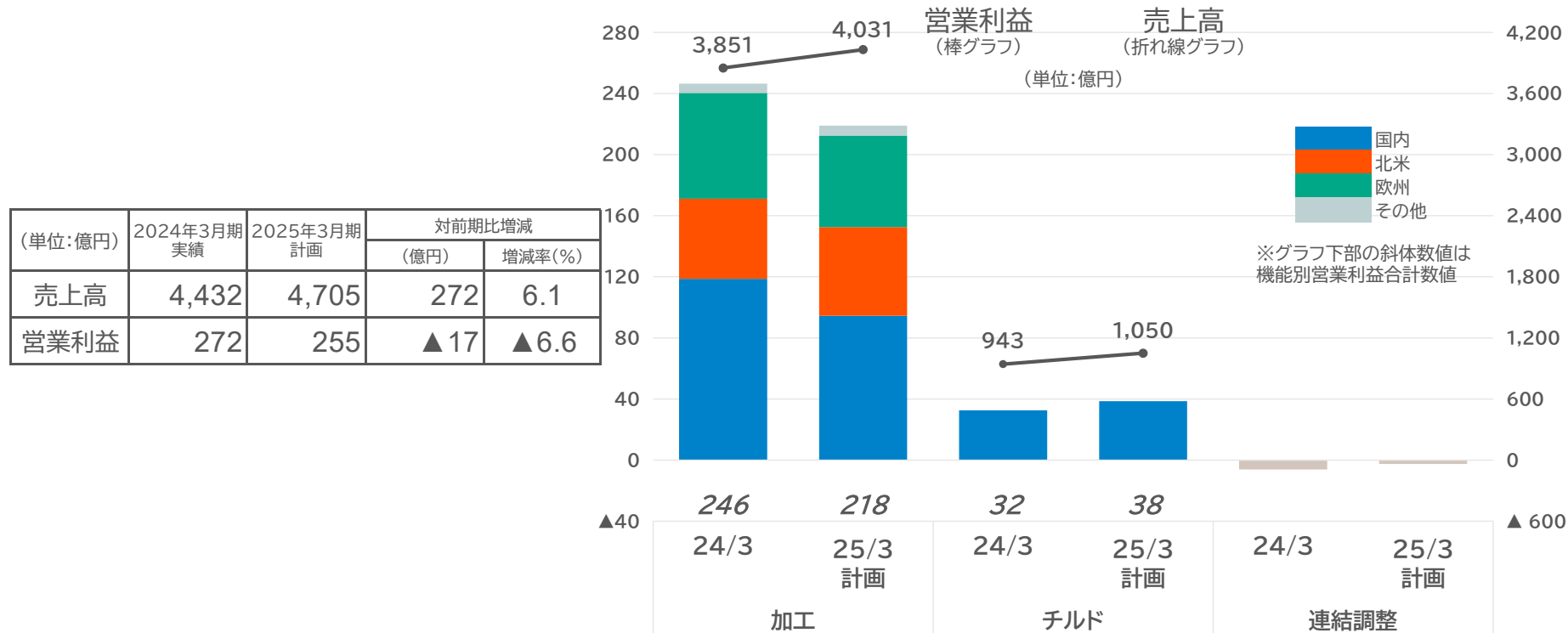


加工拠点として岩手県陸前高田市の(株)武蔵野フーズを取得



## 2025年3月期の取組み：食品事業

チルドはインバウンド効果などで拡大を見込む。加工は国内外とも原料価格低下あるも、円安や物流費の高騰、販売数量減対策としてのプロモーション費用などを織り込む。



お客様のニーズにお応えするとともに、様々な社会課題の解決に貢献する商品を展開。

<ROIC向上の施策>



税引後営業利益	健康領域商品	「速筋タンパク」や減塩技術を基に、差別化した高付加価値品の販売強化
	事業拡大	カテゴリーNo. 1商品群の拡大や、冷凍幼児食やペットフード等新規カテゴリーの創出
	チルド	昨年グループ入りしたグルメデリカとのノウハウ共有や開発力強化により事業を強化・拡大 チルドと冷凍食品の融合による新カテゴリーの創出
投下資本	資産効率向上	単品別収支管理の継続による生産性向上
		チルド事業の生産体制最適化
		工場群の生産性向上活動スマートワーク2025の推進と機能の再編成

即食・簡便ニーズに対応したチルド事業をさらに拡大

- 商品開発体制の強化
- 生産性向上に向けた生産工場の最適化
- カバーエリア拡大による配送効率などの向上



フローズンチルド/冷凍弁当・冷凍惣菜を拡大し、個食・簡便ニーズに対応



レンジ調理で簡単に喫食できるワンプレート冷凍食品(2024年3月発売)



# 今後の取組み： 食品事業(海外)

## 成長する海外食品事業を拡大。

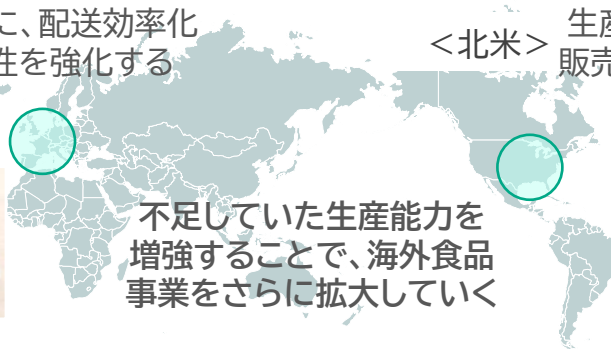
<ROIC向上の施策>



営業利益 税引後	北米	商品カテゴリーの拡大(家庭用えび商品、業務用白身魚商品)に加え、健康志向の新品「Air Fried」やアジア市場向け商品の拡売を図る
	欧州	フレッシュ感のあるチルド食品を中心とした販路拡大に加え、スペインやイタリアなどフランス周辺国への販売エリア拡大
投下資本	生産能力 増強	欧米とも需要増に対応するための能力増強投資を計画(2025年稼働予定)
	新たな 市場開拓	アジア市場は24年度中に新たな戦略を策定

<欧州> 生産能力を拡大するとともに、配送効率化と包装設備自動化で収益性を強化する

<北米> 生産能力増強投資に加え、原料調達・製品販売の物流効率化、生産品目最適化を図る



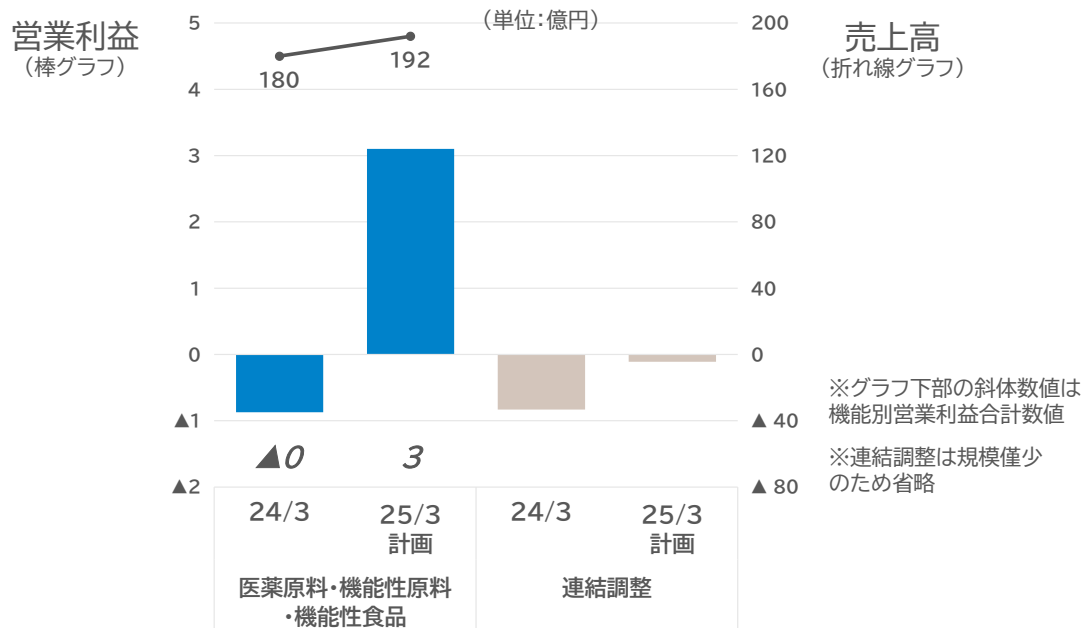
不足していた生産能力を増強することで、海外食品事業をさらに拡大していく



## 2025年3月期の取組み： ファインケミカル事業

医薬原料の海外展開を進めているが、欧州の承認時期や米国の輸出再開時期が見込み難いことから計画に織り込んでいない。通販は紅麴問題の影響が残る想定。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	156	165	8	5.1
営業利益	▲1	3	4	—



世界で医薬品向け高純度EPAと医薬中間体(※)を拡大していく。



※医薬中間体: 医薬向けに一定程度濃度アップしたEPAエチルエステル  
高純度EPA原薬の中間工程段階にある製品

## 水産資源への影響も懸念される地球温暖化への取組みを強化していく

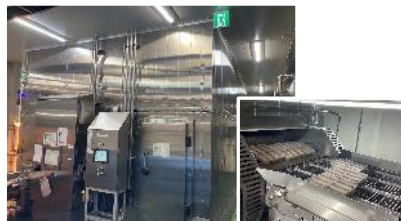
- ▶ 温室効果ガスの排出量削減に向け、太陽光発電設備の導入や自然冷媒冷凍・冷蔵設備の導入を進めていく。

### <環境対策投資の主な実例>

2023年度実施(約17億円)



太陽光発電設備導入  
(国内外食品、他)



設備更新で脱フロン化・  
自然冷媒への切替実施  
(国内食品、他)


2024年度予定(約20億円)



太陽光発電設備導入  
(国内養殖、物流、他)



脱フロン化、自然冷媒  
機器への更新  
(物流、他)



変化への対応力を上げ、  
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(Good Foods 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。

※2022年5月に発表した長期ビジョンに関する資料は  
「参考資料」P38－39に掲載しております。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



**まだ見ぬ、食の力を。**

株式会社ニッスイ  
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課  
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 参考資料



## 2024年3月期 連結損益計算書(前期比)

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	7,681	8,313	631	
売上総利益	1,160	1,256	95	
販売費・一般管理費	915	959	44	
営業利益	244	296	51	
営業外収益	53	55	2	
営業外費用	20	32	12	支払利息+13
経常利益	277	319	41	
特別利益	67	56	▲10	投資有価証券売却益+12、漁業権譲渡益+9 関係会社株式売却益▲34
特別損失	51	28	▲23	関係会社整理損▲5、災害による損失▲4、 投資有価証券売却損▲3
税金等調整前当期純利益	292	348	55	
法人税等	78	113	34	
法人税等調整額	▲6	▲11	▲5	
当期純利益	220	246	26	
非支配株主に帰属する 当期純利益	7	8	0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	212	238	26	



## 2024年3月期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2023年3月期 実績		2024年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,458	1,921	1,483	2,089	24	167	28	139
EUR(百万ユーロ)	418	579	457	700	39	120	53	66
DKK(百万クローネ)	3,703	690	3,280	673	▲423	▲17	▲80	63
その他通貨	—	309	—	354	—	45	18	26
計		3,501		3,817		315	20	295

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第4四半期の平均

	2023年3月期 第4四半期	2024年3月期 第4四半期	変動率
米ドル(USD)	139.94 円	146.14 円	4.4%
ユーロ(EUR)	144.21 円	159.10 円	10.3%
デンマーククローネ (DKK)	19.39 円	21.33 円	10.0%

## 2024年3月期 セグメントマトリックス 売上高(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,482 (105)	660 (53)	359 (12)	63 (▲6)	763 (5)	4,328 (170)	▲960 (▲85)	3,368 (85)
	2,377	606	346	69	758	4,158	▲874	3,283
食品事業	2,826 (383)	1,067 (100)		97 (9)	803 (144)	4,795 (638)	▲362 (▲25)	4,432 (612)
	2,443	966		88	659	4,157	▲337	3,820
ファイン事業	180 (▲93)			0 (▲4)		180 (▲98)	▲23 (4)	156 (▲94)
	274			4		279	▲28	251
物流事業	288 (▲0)					288 (▲0)	▲135 (▲2)	152 (▲2)
	288					288	▲133	154
その他事業	259 (12)			1 (0)		260 (13)	▲58 (17)	202 (30)
	246			1		247	▲75	171
仮計	6,036 (407)	1,727 (154)	359 (12)	163 (▲1)	1,567 (150)	9,854 (723)		
	5,629	1,572	346	164	1,417	9,131		
連結調整	▲1,009 (▲73)	▲184 (▲35)	▲216 (9)	▲114 (3)	▲17 (3)		▲1,540 (▲91)	
	▲935	▲148	▲226	▲117	▲21		▲1,449	
連結計	5,027 (333)	1,543 (119)	143 (22)	49 (2)	1,550 (153)			8,313 (631)
	4,693	1,424	120	47	1,396			7,681

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

# 2024年3月期 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)

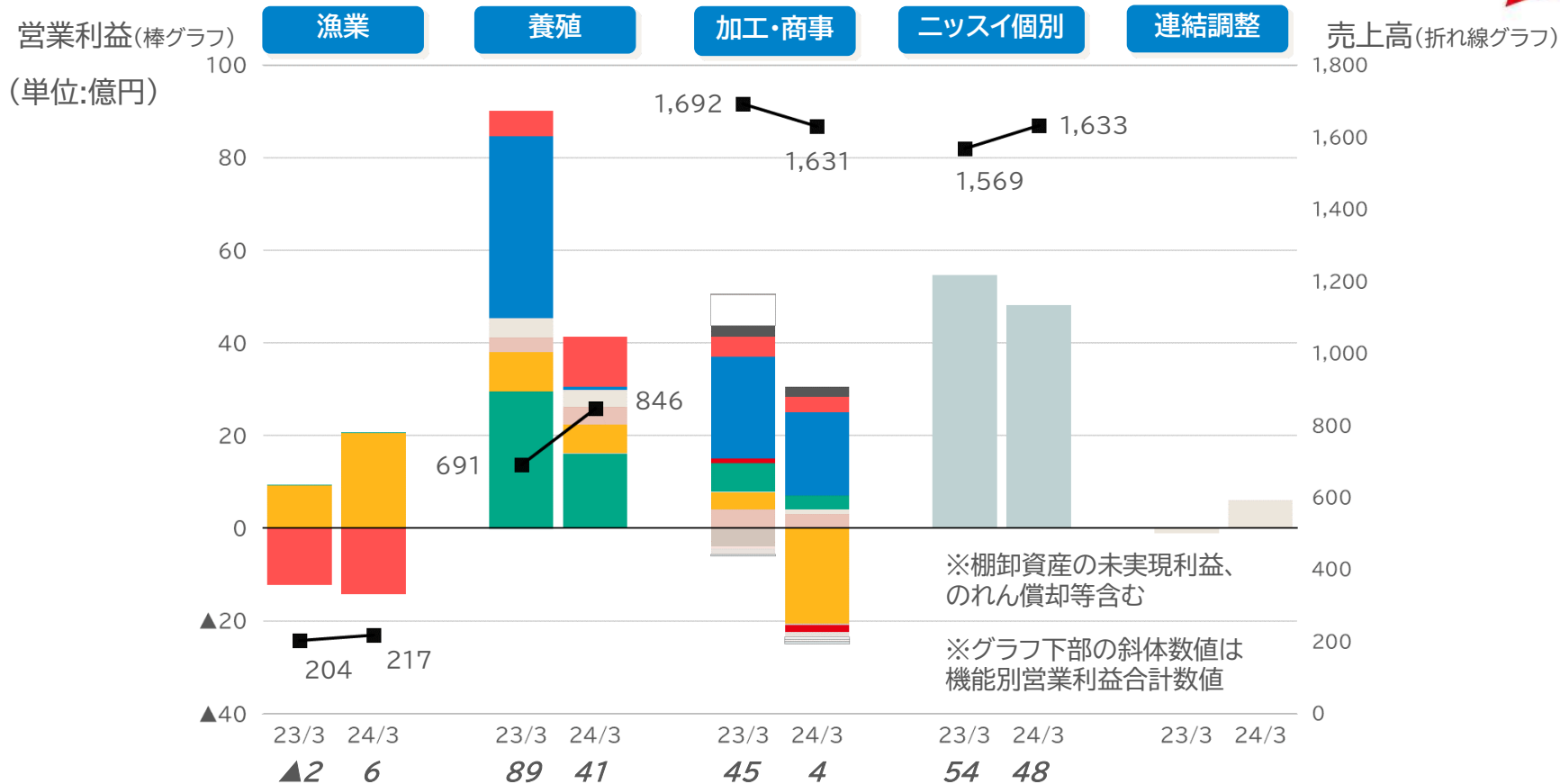
(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	108 (▲8)	▲11 (▲28)	▲15 (▲43)	1 (▲0)	17 (▲4)		100 (▲85)	6 (7)	106 (▲78)	3.2 (▲2.5)
	117	17	27	2	21		186	▲1	185	5.7
食品事業	151 (108)	52 (20)		6 (0)	69 (33)		279 (163)	▲6 (▲4)	272 (158)	6.2 (3.2)
	42	31		5	35		115	▲1	114	3.0
ファイン 事業	▲0 (▲17)			▲0 (▲0)			▲0 (▲18)	▲0 (▲0)	▲1 (▲18)	▲1.1 (▲8.0)
	16			0			17	0	17	6.9
物流事業	15 (▲0)						15 (▲0)	0 (▲0)	15 (▲0)	10.1 (▲0.2)
	15						15	0	15	10.3
その他 事業	7 (▲0)			0 (▲0)			7 (▲1)	0 (1)	7 (0)	3.9 (▲0.6)
	8			0			8	▲0	7	4.4
全社経費						▲105 (▲8)	▲105 (▲8)	0 (▲0)	▲104 (▲8)	
						▲96	▲96	0	▲95	
仮計	281 (81)	41 (▲8)	▲15 (▲43)	7 (▲1)	86 (29)	▲105 (▲8)	296 (49)			
	200	49	27	9	56	▲96	247			
連結調整	▲2 (▲3)	1 (2)	6 (5)	0 (1)	▲6 (▲4)	0 (0)		▲0 (2)		
	0	▲1	0	▲0	▲1	0		▲2		
連結 計	279 (78)	42 (▲5)	▲9 (▲37)	8 (▲0)	80 (25)	▲104 (▲8)			296 (51)	3.6 (0.4)
	200	48	28	8	55	▲96			244	3.2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

# 2024年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)



# 2024年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

営業利益(棒グラフ)

加工

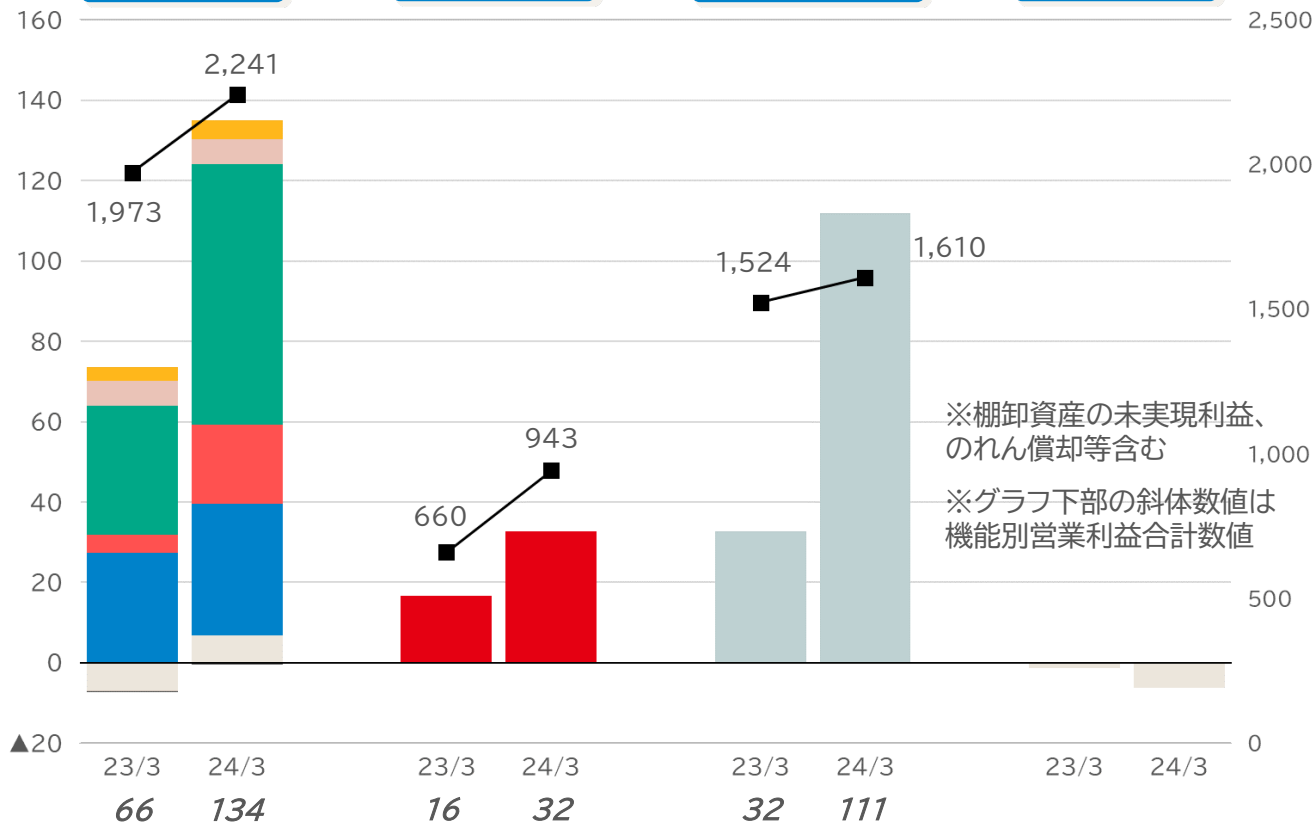
チルド

ニッスイ個別

連結調整

売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)

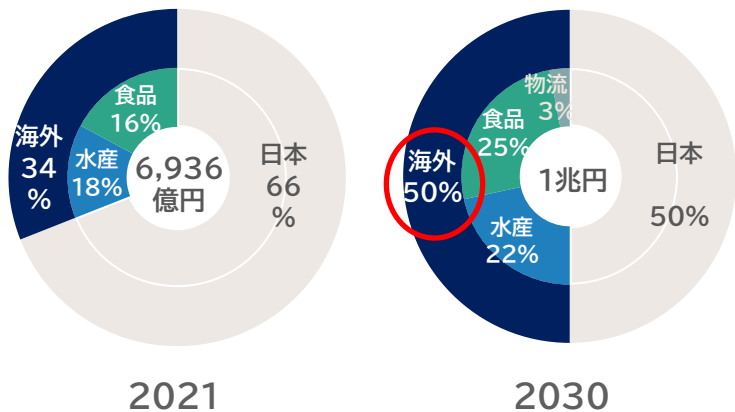


# 2030年事業ポートフォリオ像

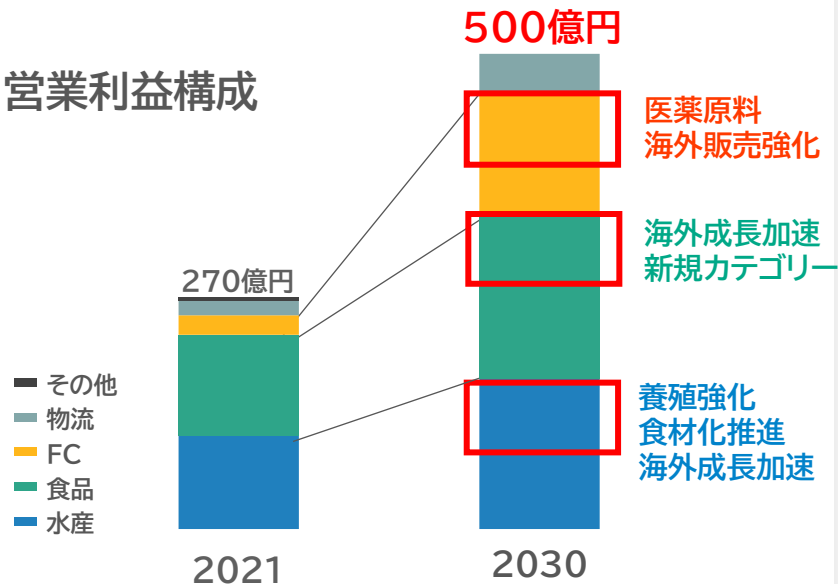
海外(食品・水産)事業の成長加速に加え、ファインケミカル事業、養殖事業の強化により  
営業利益500億円を目指す

経済価値

## 売上高構成



## 営業利益構成



## 2030年 主要KPI

創出価値	重点テーマ	目標	2030年目標(KPI)	基準年度・単位
環境価値	気候変動への対応と 海洋環境の保全	CO2排出量削減	CO2排出量(Scope1・2) <b>30%削減</b> <b>2050年カーボンニュートラル実現</b>	2018年度・総量
		プラスチック削減	プラスチック使用量※ <b>30%削減</b>	2015年度・原単位
社会価値	持続可能な調達	水産資源の持続可能性	持続可能な調達比率 <b>100%</b>	-
		責任ある調達(人権)	主要な1次サプライヤーアセスメント比率 <b>100%</b>	-
	健康課題の解決	健康領域商品の拡大	当社指定の健康領域商品売上 <b>3倍の拡大</b>	2021年度
人財価値	多様な人財の活躍	従業員エンゲージメント	従業員エンゲージメントスコア※ <b>20%のスコア向上</b>	2021年度
		女性活躍	女性幹部職比率※ <b>20%</b>	-
経済価値	世界で戦える資本力	成長・収益力	売上高 <b>1兆円</b> 営業利益 <b>500億円</b>	-
		資本効率性	ROIC <b>7.0%以上</b>	-
		海外展開	海外所在地売上高比率 <b>50%</b>	-

※対象範囲はニッスイ個別



まだ見ぬ、食の力を。